

若い世代の人たちにもっと方言の意味を理解してもらうには

気仙沼高校 5609B班

1. 序論 目的

・地域の文化を伝え、若い世代の人たちにもっと方言を理解して使ってもらいたい

背景

日常的に方言を使っているも
 ・方言と理解していない人
 ・方言を知らない人がいる から
 方言の理解を深めたい

仮説

・方言が受け継がれていないから世代ごとで理解度に格差があるのではないか

2. 本論

方言についてのアンケート
 ・アンケート結果(対象:気仙沼高生 N=266)

方言が使われなくなる原因

テレビやインターネットの普及
 標準語での国語教育の充実、核家族世帯の増加
 ⇒ **そもそも方言を聞く機会が減少**
 ・悪い印象の語、汚い印象の語が目立ち、進んで使わなくなる
 ・方言を話すことで、差別される時代があったため

3. まとめ

方言が消えてきた理由

⇒ 示すもの自体がなくなって使われなくなったり、汚い印象のものは、使われなくなったりしたから

どういう方言が残るのか

⇒ 明るい印象、便利なもの、その方言でしか表現できないもの
 例) めんこい いずい おぼんです



4. 結果

・**推す方言を決める** ・**どうやって残したいのか**
 例: LINEスタンプ ポストカード
 カードゲーム 手ぬぐい など...

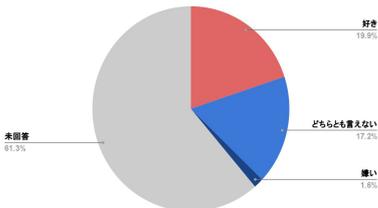
5. 考察

テレビ、インターネットが普及したり国語教育で標準語を聞いたりすることで、方言に触れる機会が少なくなったこと、またコミュニケーションの手段が標準語で十分と考えられていることが原因であると思われる。

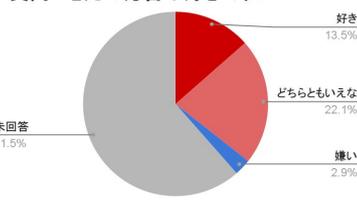
戦争前後には方言を使った者に「方言札」を掛けさせることがあったそう。
 また、子供が方言に触れることに抵抗を持った親もいた。



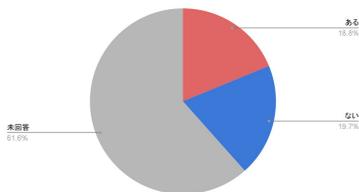
質問1 地元は好きですか？



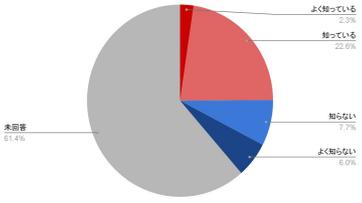
質問 2 地元の方言は好きですか？



質問5 方言を使っている意識はありますか？



質問 6 方言をどのくらい知っていると思いますか



グラフから

地元の方言が好きな人の割合は嫌いな人の割合を上回っているが、どちらともいえない人も多かった。
やはり、使っている意識や、ある程度の認知度がなければ、好き嫌いを区別できないのではないかな。
 また、どのくらい方言を知っているかという質問に対して、知らないと答えた人は「知らない」、「よく知らない」の2項目併せても「知っている」と答えた人の割合に満たなかったため知名度がまったくくないわけではないことが分かった。

質問 3 地元の方言が好きな理由または好きではない理由をお聞かせください

- ・おもしろいから
- ・その人の出身が分かるから
- ・その地域でしか伝わらない表現があるから
- ・方言女子は可愛いから
- ・濁点が多くて汚く聞こえるから
- ・普段あまり聞く機会がないから
- ・言葉に愛着を持っていないから
- ・話しやすい
- ・落ち着くから
- ・田舎臭い

質問4 方言についてのイメージをお聞かせください

- ・面白い
- ・かわいい、カッコいい
- ・温かみを感じる
- ・田舎
- ・聞き取りにくい
- ・親しみやすい、安心する
- ・使いやすい
- ・独特
- ・古臭い
- ・ダサい



《参考文献・ご協力いただいた方々》

危機的な状況にある言語・方言の実態に関する調査研究事業 報告書
 木部暢子・三井はるみ・下地賀代子・盛思超・北原次郎太・山田真寛
 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
 けんめま方言アラカルト 三陸新報社刊
 若年層の方言使用と方言意識 近藤沙耶
 全国2万人webアンケート調査に基づく方言・共通語意識の最新動向
 田中ゆかり
 まるオフィス様 宮城教育大学 T准教授